

2022年度 第1四半期 決算説明資料

2022年8月5日

リンナイ株式会社

Rinnai

2022年度 第1四半期 連結決算要点

売上高 : **950.0億円** (前期比: +12.4%)

日本は給湯機器を中心に伸長。海外も主力商品の伸びや為替換算影響により増収

過去最高

営業利益 : **100.7億円** (前期比: +9.8% 利益率: 10.6%)

原材料価格・物流費の高騰やアメリカ新工場における費用増の中、販売増により増益

過去最高

経常利益 : **114.3億円** (前期比: +15.2% 利益率: 12.0%)

営業増益に加え、為替差益の発生により増益

過去最高

親会社株主に帰属する

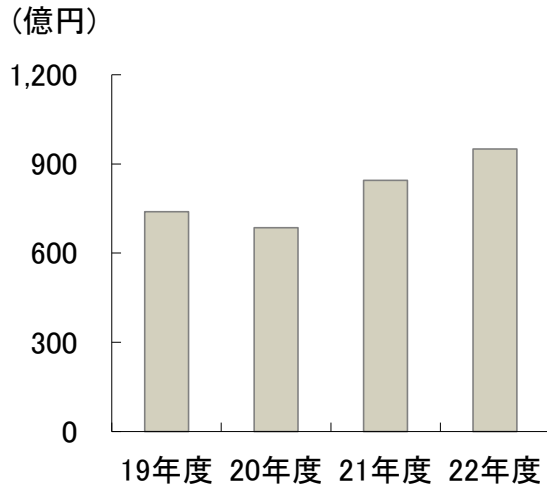
四半期純利益 : **70.1億円** (前期比: +13.3% 利益率: 7.4%)

過去最高

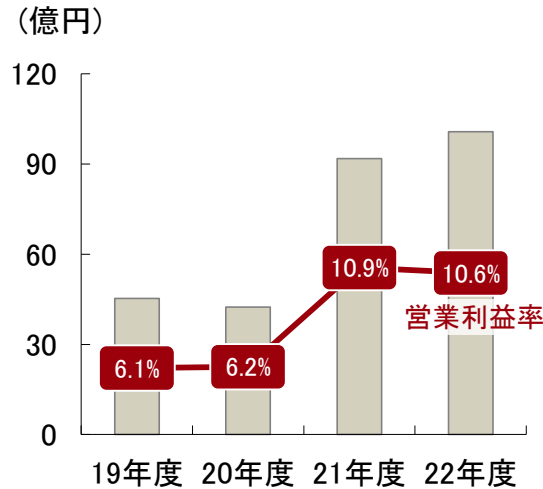
- ・供給遅延の早期解消に向けた対策効果により、日本を中心に販売が増加
- ・売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益全てで過去最高を更新

連結業績推移(第1四半期)

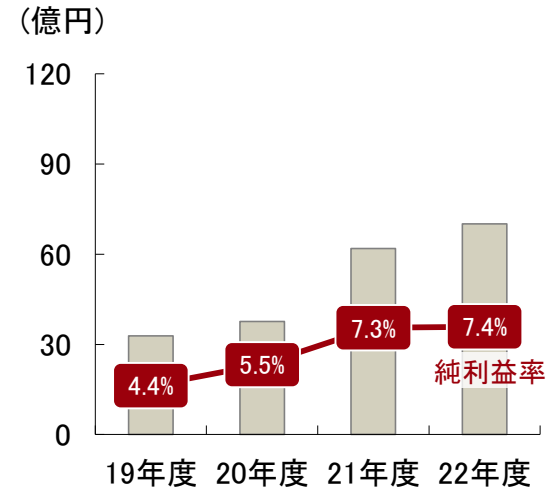
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する 四半期純利益



- ・販売面は国内外とも伸長。利益面はコスト増の中、販売増により増益
- ・売上、利益とも第1四半期での過去最高を2期連続で更新

2022年度 第1四半期 機器別売上高の内訳

[単位:億円]

機器別	2021年度		2022年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
給湯	486.8	57.6%	555.6	58.5%	+68.8	+14.1%
厨房	206.9	24.5%	221.6	23.3%	+14.6	+7.1%
空調	36.8	4.4%	35.4	3.7%	△1.4	△3.9%
業用	21.0	2.5%	24.2	2.6%	+3.2	+15.5%
その他	93.3	11.0%	113.0	11.9%	+19.6	+21.1%
合計	845.0	100.0%	950.0	100.0%	+104.9	+12.4%

2022年度 第1四半期 連結損益実績内訳

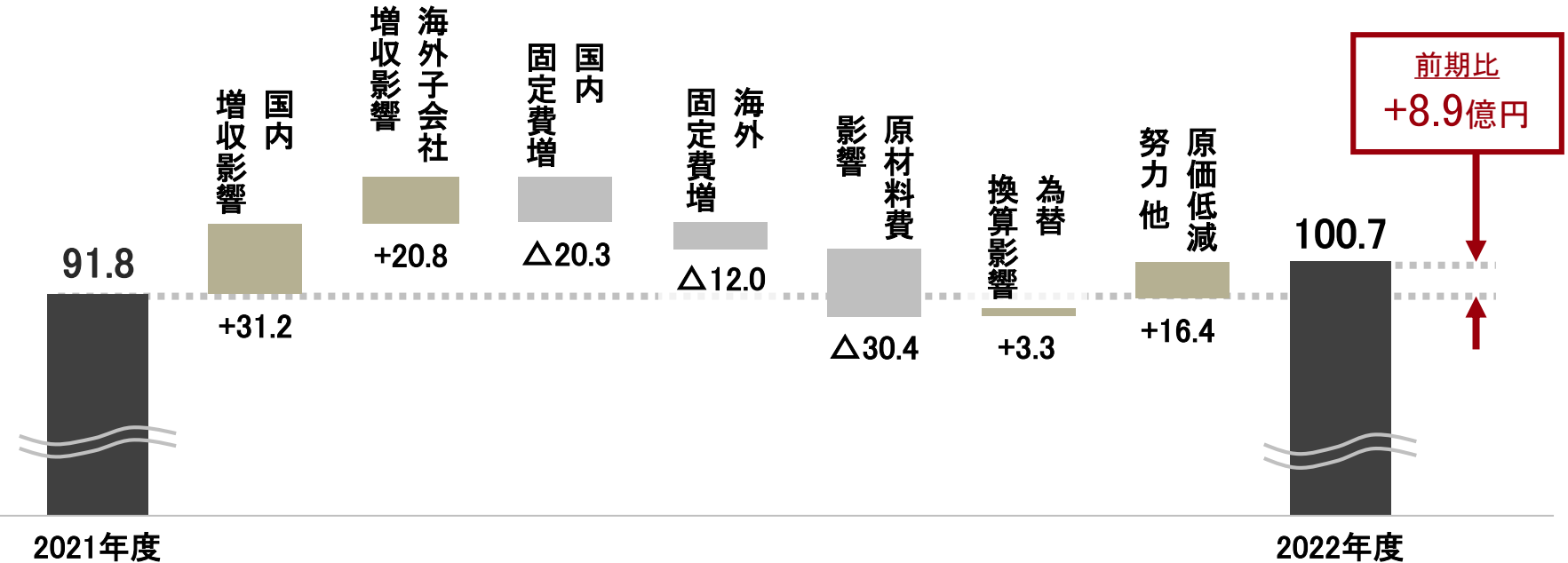
[単位: 億円]	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率	営業利益率	前期比 増減率
連結	950.0	+12.4%	100.7	+9.8%	10.6%	△0.3pt



	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率	営業利益率	前期比 増減率
リンナイ	569.0	+13.8%	54.7	+28.4%	9.6%	+1.1pt
国内関連	268.7	+13.4%	9.3	+10.1%	3.5%	△0.1pt
海外関連	515.4	+11.3%	40.1	△17.6%	7.8%	△2.7pt
合計	1353.2	+12.8%	104.2	+4.4%	7.7%	△0.6pt

2022年度 第1四半期 連結営業利益分析

[単位: 億円]



原材料価格高騰も、国内を中心とした販売増と原価低減努力で吸収し、過去最高益

リンナイ単体 2022年度 第1四半期 実績

- 供給遅延解消に向けた生産強化で給湯機器を中心に伸長
- 原材料価格・物流費高騰が続く中、販売増により増益
- 第1四半期での売上・営業利益は過去最高を更新



ビルトインコンロ



ハイブリッド給湯器



ガス衣類乾燥機



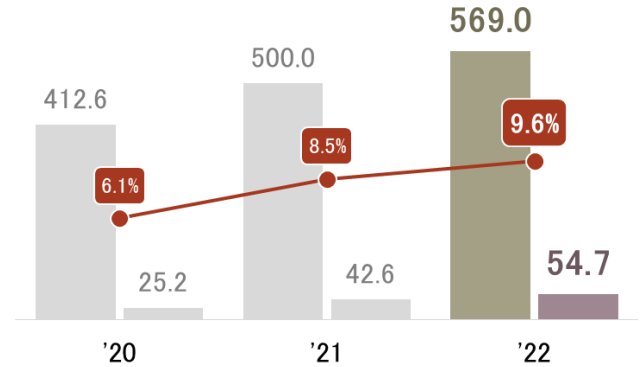
食器洗い乾燥機

(億円)

	2021年度	2022年度	前期比増減率
売上高	500.0	569.0	+13.8%
営業利益	42.6	54.7	+28.4%
営業利益率	8.5%	9.6%	+1.1pt

リンナイ単体 第1四半期 実績

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数:国内)

	前期比増減率
給湯暖房機	+19.4%
ふろ給湯器	+29.1%
ビルトインコンロ	△1.4%
ガス衣類乾燥機	+26.4%

リンナイ単体 トピック

■ 供給遅延の現状と見通し

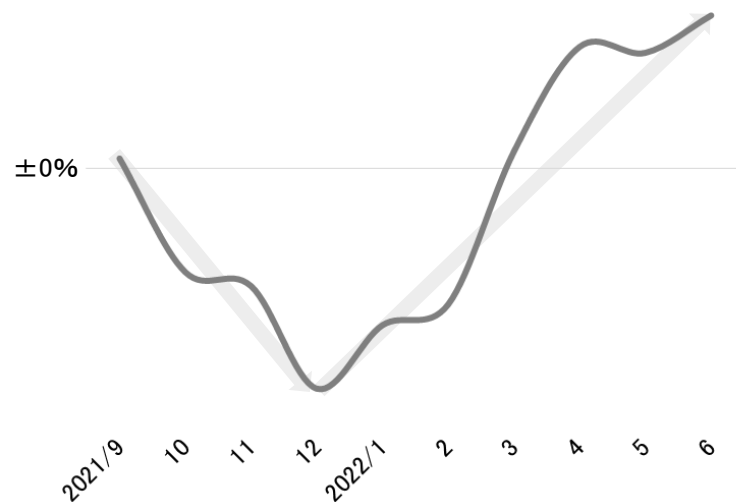
- ・ 昨年9月以降、部品調達逼迫を背景とした供給遅延により販売が急速に減少し、12月単月売上は前年比 約25%減まで落ち込む

供給遅延解消に向けた対策

- 設計** 市場流通性の高い部品への設計変更
- 内製** 主力工場での逼迫部品(ワイヤーハーネス)の内製
- 調達** 調達の多様化…複数発注、内示期間の長期化、備蓄在庫 等

- ・ 応急/恒久対策により、2022年3月以降は前年超えが続く

リンナイ単体 売上高前年比 月別推移



対策が奏功し足元は持ち直すも、本質的な逼迫状況の解消には時間が掛かる見通し

リンナイ単体 トピック

■ 春日井物流センターが竣工



春日井物流センター(愛知県春日井市)

敷地面積 : 47,436m²(駐車場など関連区域含む) 延床面積 : 51,713m² [5階建]

竣工: 2022年7月、本格稼働: 2022年10月

- ・人手不足解消を目的とした「自動化改革」
 - 自動化設備による重筋作業の軽減
 - 設備・人・輸送車をITで最適化



仕分け設備



搬送ロボット

- ・輸送効率の向上、業務効率化
 - 物流拠点の集約(総合物流センター、リンナイパーツセンター)
 - 間接業務の統合による固定費改善
- ・効率的な物流体制の実現
 - 主力生産拠点(大口工場、瀬戸工場、暁工場)の中間地点
 - 主要高速道路へのアクセスが良好な立地

リンナイアメリカ 2022年度 第1四半期 実績

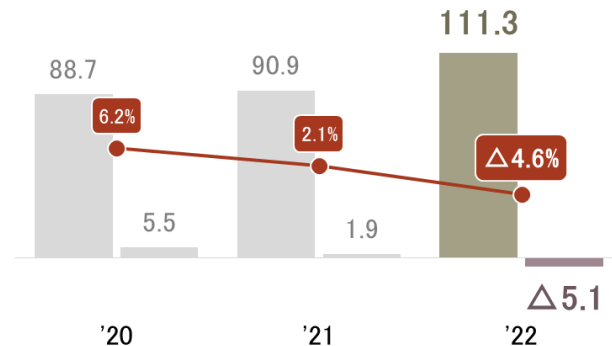
- タンクレス給湯器の現地需要が堅調に推移する中、
日本からの供給遅延や国際物流の混乱が現地販売に影響
- 新工場稼働に向けたコスト増により営業赤字



(億円)	2021年度	2022年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	90.9	111.3	+22.4%	+11.0%
営業利益	1.9	△5.1	-	-
営業利益率	2.1%	△4.6%	-	-

リンナイアメリカ 第1四半期 実績

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数)	前期比増減率
タンクレス給湯器	△0.6%
内)高効率タイプ	+18.0%

リンナイアメリカトピック

■ グリフィン工場での量産開始

2022年4月より本格的な現地生産がスタート
好調が続くタンクレス給湯器への
需要に対応すべく、現地での生産能力を強化



タンクレス給湯器
(現地生産モデル)



グリフィン工場 外観

■ 「Try Rinnai Tour」が再開

- ・ 大型バンにタンクレス給湯器を搭載し、北米全土を回る「Try Rinnai Tour」を展開
- ・ 施工業者向けに利便性や施工性をPRすることでタンクレス給湯器の更なる認知拡大を図る



タンクレス給湯器を搭載した大型バン

上海林内 2022年度 第1四半期 実績

■ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による

上海エリアのロックダウン実施で生産・販売活動に制限

■ 販売減少に伴い、現地通貨ベースでは減収・減益



給湯器



ビルトインコンロ



レンジフード



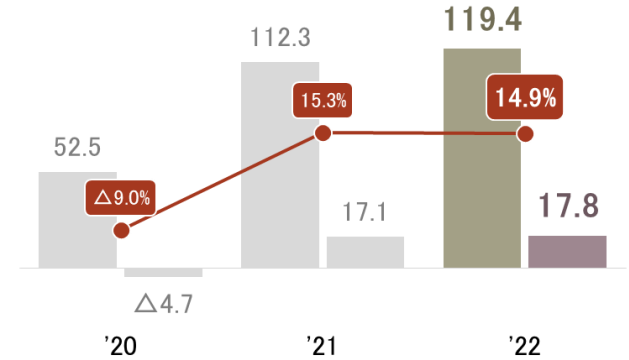
ボイラー

(億円)

	2021年度	2022年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	112.3	119.4	+6.2%	△6.0%
営業利益	17.1	17.8	+3.6%	△8.4%
営業利益率	15.3%	14.9%	△0.4pt	

上海林内 第1四半期 実績

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数)

	前期比増減率
給湯器	+0.2%
ビルトインコンロ	△29.8%
レンジフード	△49.0%
ボイラー	+1.1%

リンナイオーストラリア 2022年度 第1四半期 実績

- 日本からの供給遅延により、タンクレス給湯器・暖房機器が弱含む
- 生産性の改善進む中、原材料価格・物流費高騰により減益



タンクレス給湯器



電気タンク式給湯器

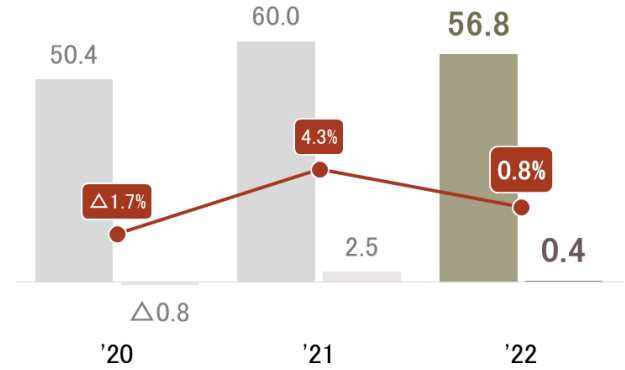


ダクト式冷暖房システム

(億円)	2021年度	2022年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	60.0	56.8	△5.4%	△8.9%
営業利益	2.5	0.4	△82.4%	△83.1%
営業利益率	4.3%	0.8%	△3.5pt	

リンナイオーストラリア 第1四半期 実績

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数)

	前期比増減率
開放型暖房機	△53.8%
業務用空調機	+31.7%
ダクト式冷暖房システム	△6.3%

リンナイ코리아 2022年度 第1四半期 実績

■ ボイラー販売は補助金額の減少と暖冬により減少

■ 販売増も原材料価格高騰により減益



親環境ボイラー



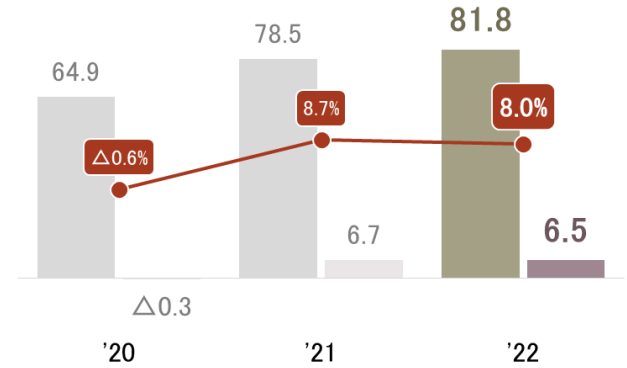
ガスコンロ



電気コンロ

(億円)	2021年度	2022年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	78.5	81.8	+4.2%	+1.9%
営業利益	6.7	6.5	△4.2%	△6.4%
営業利益率	8.7%	8.0%	△0.7pt	

リンナイ코리아 第1四半期 実績
 ■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数)

	前期比増減率
ボイラー	△12.6%
ガスコンロ	+5.3%
電気コンロ	+42.3%

リンナイインドネシア 2022年度 第1四半期 実績

■ 主力のテーブルコンロが弱含む中、ビルトイン商材が引き続き堅調

■ 原材料価格高騰の影響大きく、減益



テーブルコンロ



ビルトインコンロ

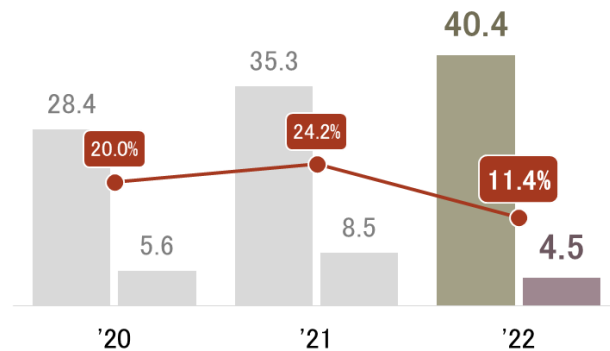


レンジフード

(億円)	2021年度	2022年度	前期比増減率	
			円貨	現地通貨
売上高	35.3	40.4	+14.2%	+4.8%
営業利益	8.5	4.5	△46.4%	△50.8%
営業利益率	24.2%	11.4%	△12.8pt	

リンナイインドネシア 第1四半期 実績

■:売上高 ■:営業利益 ●:営業利益率 (単位:億円)



(販売台数)

前期比増減率

テーブルコンロ	△5.7%
ビルトインコンロ	+26.5%
レンジフード	+39.6%

ESG トピック

■【RIM 2050】 家庭用給湯器における水素100%燃焼

日本

2022/5/30

- ・水素100%燃焼の技術開発成功に関するプレスリリースを実施
- ・コア技術を活かし、家庭用給湯器において世界初の技術開発に成功

オーストラリア

2022/7/1

- ・リンナイオーストラリアにて水素給湯器発表会を開催
- ・現地ガス事業者と連携し家庭での水素使用に向けた

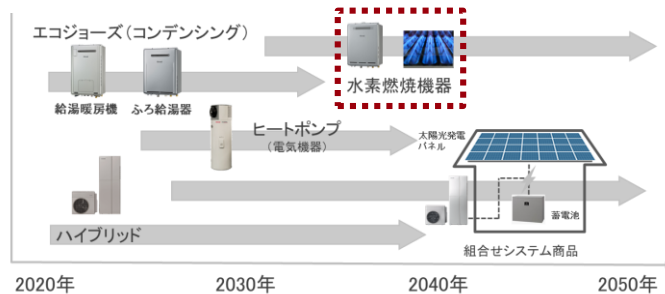
実証実験を2022年10月頃より開始予定



水素100%燃焼に関する記者発表
(日本)



政府関係者やガス事業者を招いての発表会
(オーストラリア)



「RIM2050」における商品開発ロードマップ



コンセプトモデル

本資料に掲載されております業績予想や将来予想は、現時点において入手可能な情報に基づき当社が判断して予想したものであり、実際の業績は今後様々な要因の変化により予想とは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。